

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年9月13日

【四半期会計期間】 第77期第1四半期(自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)

【会社名】 アゼアス株式会社

【英訳名】 AZEARTH Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 黒田 良

【本店の所在の場所】 東京都台東区蔵前四丁目13番7号

【電話番号】 03-3865-1311(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員総務経理部部长 羽場 恒彦

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区蔵前四丁目13番7号

【電話番号】 03-3865-1311(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員総務経理部部长 羽場 恒彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第77期 第1四半期 連結累計期間	第76期
	自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日	自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日	自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日
売上高 (千円)	2,065,318	2,167,721	9,174,256
経常利益又は経常損失() (千円)	5,744	25,450	179,173
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失() (千円)	4,086	12,674	129,075
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	39,913	3,477	92,505
純資産額 (千円)	5,078,170	5,079,764	5,140,664
総資産額 (千円)	7,663,661	7,545,411	7,525,183
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	0.71	2.25	22.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	66.3	67.3	68.3

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第77期第1四半期連結累計期間及び第76期の1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式については、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、当社は、平成28年10月12日に東京都への個人防護服等の納入に関し、独占禁止法に違反している疑いがあるとして公正取引委員会による立ち入り検査を受けました。現在、同委員会の調査に協力中ではありますが、現時点では財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに及ぼす影響は不明であります。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られ、引き続き緩やかな回復基調が続きました。世界経済は、米国を中心に先進国では緩やかな回復が続きましたが、海外の地政学リスクなどの景気下押し要因が残存し、中国及び新興国の景気減速等もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境下、当第1四半期連結累計期間においては、主力事業であります防護服・環境資機材事業に加え、たたみ資材事業においても増収増益となりましたが、アパレル資材事業においては、前連結会計年度に引き続き需要の低迷が続きました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,167,721千円（前年同四半期比5.0%増）、営業利益は10,139千円（前年同四半期は営業損失7,707千円）、経常利益は25,450千円（前年同四半期は経常損失5,744千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12,674千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失4,086千円）となり増収増益となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

防護服・環境資機材事業におきましては、当社の強みであるタイベック®防護服の市場におけるシェア拡大と新規防護服分野の市場創造に注力してまいりました。この結果、売上高は981,279千円（前年同四半期比4.7%増）、セグメント利益（営業利益）は57,548千円（前年同四半期比3.2%増）となり増収増益となりました。

たたみ資材事業におきましては、畳表等の利益率の確保できる商品の販売に注力しました。その結果、売上高は332,370千円（前年同四半期比9.2%増）、セグメント利益（営業利益）は10,972千円（前年同四半期比6.4%増）となり、増収増益となりました。

アパレル資材事業におきましては、分野別に主要取引先への販売強化と高付加価値商品の販売の拡大に注力しましたが、カジュアルウエア分野の取引先の減産の影響が大きく、売上高は717,115千円（前年同四半期比2.1%減）、セグメント利益（営業利益）は38,348千円（前年同四半期比1.1%減）と、わずかながら減収減益となりました。

なお、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用は86,481千円であります。

（注）「タイベック®」は、米国デュポン社の登録商標です。

(2) 財政状態の分析

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.7%増加し、5,703,175千円となりました。これは、主として商品及び製品が243,656千円増加、差入保証金が90,000千円増加、現金及び預金が32,588千円増加し、受取手形及び売掛金が316,279千円減少したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.0%減少し、1,842,236千円となりました。これは、主として減価償却等有形固定資産が12,716千円、無形固定資産が3,929千円減少したためであります。

この結果総資産は、前連結会計年度末に比べて20,228千円増加し、7,545,411千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて6.0%増加し、2,064,951千円となりました。これは、主として支払手形及び買掛金が228,049千円増加し、未払法人税等が47,338千円減少、賞与引当金が21,650千円減少したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて8.4%減少し、400,695千円となりました。これは、主として社債が30,000千円減少、退職給付に係る負債が11,300千円減少し、繰延税金負債が4,101千円増加したためであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.2%減少し、5,079,764千円となりました。これは、主として配当等で利益剰余金が44,748千円減少し、繰延ヘッジ損益の減少等によりその他の包括利益累計額が16,151千円減少したためであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年9月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,085,401	6,085,401	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	6,085,401	6,085,401		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月31日		6,085,401		887,645		1,038,033

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 343,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,738,400	57,384	
単元未満株式	普通株式 3,901		
発行済株式総数	6,085,401		
総株主の議決権		57,384	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式132,900株(議決権の数1,329個)が含まれております。なお、当該議決権の数1,329個は、議決権不行使となっております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年4月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成29年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アゼアス株式会社	東京都台東区 蔵前四丁目13番7号	343,100		343,100	5.64
計		343,100		343,100	5.64

(注) 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している株式132,900株については、上記の自己株式等に含まれておりません。なお、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式は、連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年5月1日から平成29年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,752,304	1,784,893
受取手形及び売掛金	2 2,584,843	2,268,563
電子記録債権	2 128,683	109,188
商品及び製品	977,670	1,221,326
仕掛品	2,100	2,214
原材料	114,457	115,452
差入保証金	-	90,000
その他	124,520	135,909
貸倒引当金	19,444	24,372
流動資産合計	5,665,135	5,703,175
固定資産		
有形固定資産	1,445,786	1,433,069
無形固定資産	111,173	107,244
投資その他の資産		
投資有価証券	142,805	144,265
保険積立金	100,070	100,459
その他	70,267	64,792
貸倒引当金	10,055	7,595
投資その他の資産合計	303,087	301,922
固定資産合計	1,860,047	1,842,236
資産合計	7,525,183	7,545,411
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,206,132	1,434,182
電子記録債務	255,146	266,292
短期借入金	13,700	13,700
1年内償還予定の社債	80,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	75,000	75,000
未払金	46,760	40,916
未払法人税等	55,510	8,172
賞与引当金	56,200	34,550
その他	158,794	122,139
流動負債合計	1,947,244	2,064,951
固定負債		
社債	75,000	45,000
長期借入金	112,500	112,500
役員退職慰労引当金	110,500	107,480
役員株式給付引当金	6,448	10,088
退職給付に係る負債	132,825	121,524
その他	-	4,101
固定負債合計	437,274	400,695
負債合計	2,384,518	2,465,646

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	887,645	887,645
資本剰余金	1,094,103	1,094,103
利益剰余金	3,338,243	3,293,494
自己株式	266,865	266,865
株主資本合計	5,053,126	5,008,378
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,127	26,251
繰延ヘッジ損益	4,083	5,816
為替換算調整勘定	58,326	50,951
その他の包括利益累計額合計	87,537	71,386
純資産合計	5,140,664	5,079,764
負債純資産合計	7,525,183	7,545,411

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
売上高	2,065,318	2,167,721
売上原価	1,676,661	1,762,019
売上総利益	388,656	405,702
販売費及び一般管理費	396,364	395,562
営業利益又は営業損失()	7,707	10,139
営業外収益		
受取利息	180	119
受取配当金	1,834	1,140
為替差益	444	5,649
補助金収入	-	3,588
その他	850	5,264
営業外収益合計	3,309	15,763
営業外費用		
支払利息	623	437
保険解約損	701	-
その他	21	14
営業外費用合計	1,346	452
経常利益又は経常損失()	5,744	25,450
特別損失		
減損損失	93	107
固定資産除却損	-	0
ゴルフ会員権評価損	452	-
特別損失合計	546	107
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失()	6,290	25,342
法人税、住民税及び事業税	3,736	4,730
法人税等調整額	5,941	7,938
法人税等合計	2,204	12,668
四半期純利益又は四半期純損失()	4,086	12,674
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	4,086	12,674

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	4,086	12,674
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,091	1,123
繰延ヘッジ損益	1,582	9,900
為替換算調整勘定	29,317	7,375
その他の包括利益合計	35,827	16,151
四半期包括利益	39,913	3,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,913	3,477
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日至平成29年7月31日)	
(取締役等に対する株式給付信託(BBT)の導入)	
<p>当社は、当社取締役及び監査役(社外取締役及び社外監査役を含みます。以下、「取締役等」といいます。)の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役(社外取締役を除きます。)が中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めること並びに、社外取締役にあっては監督、監査役にあっては監査を通じた中長期的な企業価値の向上に貢献する意識を高めることを目的として、取締役等に対する株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。</p> <p>当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号平成27年3月26日)に準じております。</p>	
(1) 取引の概要	
<p>本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、取締役等に対して、当社取締役会が定める役員株式給付規程(ただし、役員株式給付規程のうち、監査役に関する部分については、その制定及び改廃につき、監査役の協議に基づく同意を得るものとしたします。)に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」といいます。)が信託を通じて給付される株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時とします。</p>	
(2) 信託に残存する自社の株式	
<p>信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度69,890千円、132,900株、当第1四半期連結会計期間69,890千円、132,900株であります。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
受取手形裏書譲渡高	61,959千円	49,869千円

2. 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び電子記録債権を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
受取手形	99,725千円	
電子記録債権	3,019千円	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
減価償却費	21,386千円	18,975千円
のれんの償却額	879千円	879千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年7月27日 定時株主総会	普通株式	57,423	10.00	平成28年4月30日	平成28年7月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年7月28日 定時株主総会	普通株式	57,422	10.00	平成29年4月30日	平成29年7月31日	利益剰余金

(注) 平成29年7月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産
管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式に対する配当金1,329千円が含まれており
ます。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	防護服・ 環境資機材	たたみ 資材	アパレル 資材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	936,860	304,251	732,530	1,973,641	91,676	2,065,318		2,065,318
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	348	53	1,241	1,643	32,039	33,682	33,682	
計	937,209	304,304	733,771	1,975,285	123,715	2,099,001	33,682	2,065,318
セグメント利益 又は損失()	55,752	10,316	38,785	104,854	21,932	82,922	90,630	7,707

(注) 1 「その他」の区分は中国子会社であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引に関わる調整額 959千円、及び、報告セグメント
に配分していない一般管理費等の全社費用 89,670千円であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年5月1日至平成29年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	防護服・ 環境資機材	たたみ 資材	アパレル 資材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	981,279	332,370	717,115	2,030,765	136,956	2,167,721		2,167,721
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	323	24	2,844	3,192	30,558	33,751	33,751	
計	981,603	332,394	719,959	2,033,957	167,514	2,201,472	33,751	2,167,721
セグメント利益 又は損失()	57,548	10,972	38,348	106,868	9,191	97,677	87,538	10,139

(注)1 「その他」の区分は中国子会社であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引に関わる調整額 1,056千円、及び、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用 86,481千円であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	0円71銭	2円25銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	4,086	12,674
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(千円)	4,086	12,674
普通株式の期中平均株式数(株)	5,742,305	5,609,356

(注)1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当第1四半期連結累計期間において132,900株であります。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 9月13日

アゼアス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 秀 仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 祐 暢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアゼアス株式会社の平成29年5月1日から平成30年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年5月1日から平成29年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年5月1日から平成29年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アゼアス株式会社及び連結子会社の平成29年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。